

「位置関数理論」における位置関数の同時起動について

富岡美穂

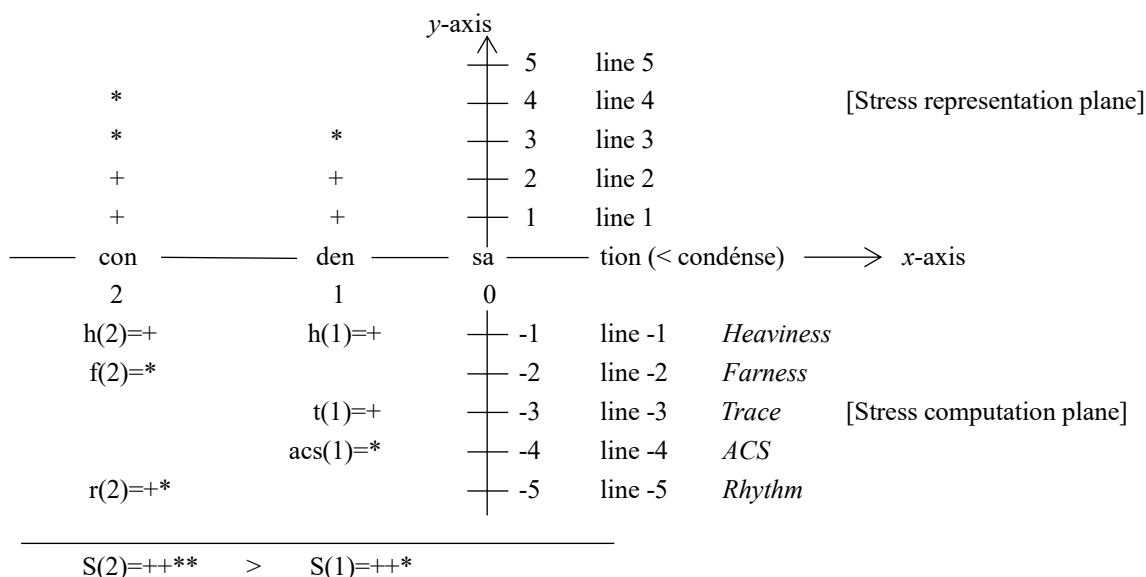
1. 序論

The Sound Pattern of English (Chomsky and Halle 1968) 以来、生成文法の枠組みで英語の語強勢配置の分析が数多く発表されたが、副次強勢の配置を決定する方法を明確に示したものはほとんどなかったといえる。そのような中、英語における語の副次強勢配置を説明する試みが提案されている（「位置強勢理論 (Positional Function Theory)」(Yamada 2010)）。この位置関数理論によれば、英語では 16 個の位置関数 (Positional Function) がそれぞれの起動条件を満たす音節で起動され、各音節に強勢値が与えられ、その相互作用によって語の副次強勢配置が決定される。しかしながら、その中に「特定の位置関数間には、例外的に起動順序が存在する」というような主張がなされており、この主張は位置関数理論の基本概念である「位置関数間には適用の順序は存在せず、同時に適用される」という主張と矛盾している。そこで、本論では位置関数間に起動の順序を想定する必要があるか否かについて検討を行う。

2. 位置関数理論

位置関数理論では、位置関数が重要な役割を果たす。位置関数は、語の強勢配置を決定する装置の一つであり、それぞれの言語において固有の数の位置関数が選ばれる。各言語の母語話者はその言語固有の位置関数を心的に保持していると想定される。英語の場合、16 個の位置関数が想定され、位置関数は音節ごとに起動条件が満たされるとその音節で起動される。位置関数が起動された各音節上に「+」、「*」、または「-」の強勢値が与えられる。その後、これらの強勢値は音節ごとに計算され、その音節の下に表示される。これらの強勢値の相互関係により、第二強勢、第三強勢が決定され、強勢曲線が得られる。次の (1) はその仕組みを図式化したものである。

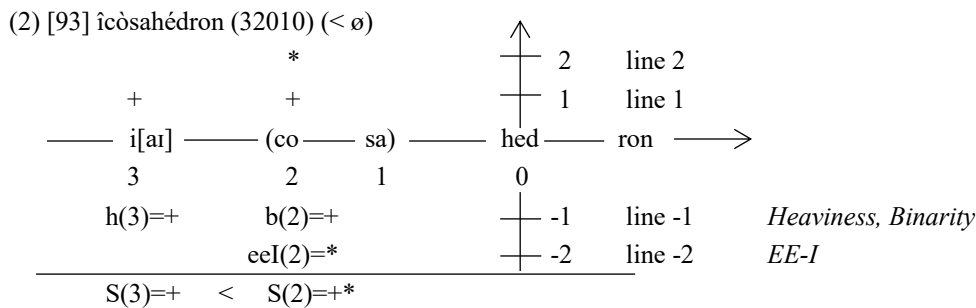
(1) [24]¹ còndénsation (2310) (< condénse (01))



(Yamada (2010: 196)を一部変更)

3. 問題点と提案

上記のように、位置関数はそれぞれの音節を基にして音節ごとに起動され、その際には起動順序は存在しないことが基本とされている。しかし、Yamada (2010) では例外として、裸核 (bare-nucleus) 音節に関係する一部の関数において適用順序が想定されている。具体的には、*Edge Exemption I (EE-I)* という裸核に関する関数が問題であり、この関数は他の関数が起動された後で起動されるということになっている。しかしながら、位置関数間に順序関係を想定するという取り扱いは位置関数理論の基本原則に反するものである。そこで本論文では、位置関数が起動される際に順序が必要か否かを、裸核で始まる語である“icosahedron”を用い、検証する。



(Yamada (2010: 239)を一部変更)

(2) では、第一音節の“i”は裸核、“co”と“sa”は軽音節で、主強勢は“hed”に配置されている。主強勢位置は「0」として音節の下に表記されている。*EE-I*の定義によると、「2つの連続する軽音節」は結合され二音節の構成素となり、位置関数 *Binarity* ($b(2)=+$) が第二音節“co”において起動される。同時に同じ音節“co”に対して *EE-I* ($eel(2)=*$) が起動され、第二音節“co”の下に“S(2)=+*”という強勢値の合計が表記される。一方、第一音節の“i”は重音節であるため、*Heaviness* ($h(3)=+$) という位置関数が起動され、その結果、第一音節“i”の下に“S(3)=+”という強勢値の合計が表記される。これらの相互関係から (2) に示すとおり、第一音節に第三強勢が配置され、言語事実に合った強勢曲線の分析結果が示されている。しかし、“i”に強勢が配置された場合、*EE-I*の「語の左端の裸核は強勢配置を免除される」という機能が果たされていないことになる。この問題を解決するために Yamada (2010) では、裸核に関する関数と他の関数の間には適用順序が存在すると想定されている。つまり、*Heaviness* が最初に適用され、その後で *EE-I* が起動されるという取り扱いがなされている。しかしながら、この取り扱いは明らかに位置関数の基本概念である「同時に起動される」という主張と矛盾する。

この点を考察するために、まず、*EE-I*の定義を再確認した。*EE-I*は「語の左端の裸核は強勢の配置を免除される」ということを担保する関数であるが、その仕組みは、語頭の母音に直接作用するものではなく、すぐ後の音節に強勢値を与えることで相対的に語頭の音節の強勢値が免除されるというものである。つまり、(2)で示す、第一音節の *Heaviness* の起動には影響を与えていないと考えられる。次に、順序を考慮し分析した結果と考慮せずに分析した結果を比較した。その結果、どちらも(2)に示すように同じ表記が得られ、どちらも言語事実に適合するものであった。このように同じ結果が得られるなら理論は簡潔な方が良いという「オッカムの剃刀」という一般原理に従い、順序を考慮する必要はないと考えられる。

4. 結論

英語の副次強勢配置規則は、語の副次強勢配置を決定するために使用される装置である 16 個の位置関数から成り立っており、位置関数が起動される際、その起動には順序付けが見られないという基本原則が想定されている。それにも関わらず、裸核に関する位置関数は他の関数が起動された後に起動されるという例外的取り扱いがなされていた。この矛盾を取り除くことを目的とし、ここで問題となった裸核に関する関数 *EE-I* を詳細に分析した結果、順序付けの有無にかかわらず適正な分析結果が得られることから、位置関数が起動される際に敢て順序を考慮する必要はないといえる。

参考文献

- Chomsky, Noam. *Knowledge of Language: Its Nature, Origin, and Use*. New York: Praeger, 1986. Print.
- Chomsky, Noam, and Morris Halle. *The Sound Pattern of English*. New York: Harper & Row, 1968. Print.
- Halle, Morris, and Jean-Roger Vergnaud. *An Essay on Stress*. Cambridge: MIT P, 1987. Print.
- Halle, Morris, and Samuel Jay Keyser. *English Stress: Its Form, Its Growth, and Its Role in Verse*. New York: Harper & Row, 1971. Print.
- Hayes, Bruce. “The Phonology of Rhythm in English.” *Linguistic Inquiry* 15 (1984): 33-74. Print.
- Yamada, Eiji. *Subsidiary Stresses in English*. Tokyo: Kaitakusha, 2010. Print.
- Yamada, Eiji. “Main Stress Assignment in English Words.” *JELS* 30 (2013): 229-235. Print.
- Yamada, Eiji. “Covert Stress Preservation of Derived Words in English.” PAC 2016 International Conference: English Melodies. Aix-Marseille Univ. 29 Sept. 2016. Presentation.

¹ []内の数字は *Subsidiary Stresses in English* (Yamada 2010)で示されている数字を表す。